

○このガイドラインがめざすまちの姿

海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある「美しいまち」
～おもてなしの気持ちをこめて、人にやさしく暖かなまちをつくりましょう～

大槌町は東日本大震災が発生してから5年目を迎え、ようやく本格的な住宅再建が始まろうとしています。新たなまちづくりに際して、どのようなまちを目指すべきか、ガイドラインを作成することとなりました。

ガイドラインの方向性や示すべき内容を検討するにあたって、委員会で議論をしたり、住民の方々と意見交換をしたりしながら進めてきました。

基本理念は「大槌町復興計画」と同様に「海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」と位置づけ、さらに、それを具現化するために、どんなことを考えていけば良いかについて意見交換をしてきました。

その中で、まちづくりで一番大切なことは、「人が大切にされるまち」ではないかという点が注目されました。人が大切にされるまちとは、復興を進める中で築かれた人同士の絆や、信頼関係がまちの中で感じられること、暖かな気づかいにあふれていることなどがイメージとしてあげられました。

具体的なまちの姿としては、歓迎の気持ちを表すような草花や緑にあふれ、人を拒絶する高い垣根を極力減らし、隣人の顔が見えるオープンな家づくりなどがイメージとして共有されるようになりました。

こうした議論を経て「おもてなしの気持ちをこめて、人にやさしく暖かなまちづくり」という、ある意味当たり前ですが、とても大切な言葉を、基本理念に添えることとしました。

本書はそうした考え方に基づいて、具体的なデザインの参考になる事例を多く掲載しています(主として「1 民間の住宅・商店等の景観づくり」の内容です)。どうか、隣人あるいは地区の方々と話し合いながら、新しい住宅再建の際のヒントとして役に立ていただければ幸いです。